

「家がいいね」 第141号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2016.2.8

本当の所、誰が決めているの？

怒りは体力を消耗させるので避けたいのですが、書かずにはおれないこともあります。早くも二月ですが、五月サミット、七月選挙、八月オリンピック、行事に流される今年はさらに早いでしよう。背後では今何と言われようと決めてしまえと政治の奔流があります。些細な議論を延々として国民が嫌気をさすようにして、だから俺たちに任せておけという口口です。不誠実な言葉に国民が怒らなくなりました。切実な地元の問題に立ち上がるうとする人たちを、これは法律だと国家は押し潰しています。福島原発の避難で、沖繩の基地で、そして原発の再稼働で。生活の全てを賭けて反対し続けられない限界を見透かしています。それは無情な行政システムが背景にあるからです。明治に足尾銅山鉱毒事件を、生涯を賭けて告発し続けた田中正造を、そして無私の日本人の先祖を思い起こす時今です。キーワードは弱くても**一人の生活を守る**ことです。



市民の宝を、泥沼に引き込むのを許させません

自分の家が、隣の湿地に建て替え要求を出され、見積もりが遅れるうちに2倍負担に、交渉不調で3倍になるなら、どうしますか？見直しは当然ですね。2月末に見積もりが高額で、公開が先送りされた市立病院建設案はどうでしょう。一息置いて出費増を認めてくれ！ならおかしいです、今は誰の懐も痛まないでしょう。でも将来の伊勢市民に何十年も、泥沼の病院を引き継がせるのです。136号で今までの経過を書きましたが、市民の希望と異なる次元で計画が進められています。地域の病院間の機能分担にも正面から向き合わなかったと思えます。危うい状況でも後戻りできないシステムとは恐いものです。誰が流れを作っているのですか？なぜ今立ち止まらないのですか？

命を守るのは、一人に対しても同じ基盤です。

2月7日、いのちの響きに寄り添って

在宅ホスピス医の内藤いづみ先生と、歌手の小林啓子さんの、語りと唄には、笑ったり泣いたり、上質の時間をいただきました。

鎮静など症状を取る事が目的になって、病を得た人の気持ちをしっかりと聴き取って

いないのではと緩和ケアの方向に懸念をしめされました。生活を丸ごと体験するなかで、死に逝く人が、家族に何を残そうとしているか知るには、待つ時間、醸成する関係が大切だと話されました。宿題にスローライフの曼荼羅図も頂きました。歌声が心を揺さぶる現場も、小林さんのギターと唄で体験しました。

はかない「いのちの響き」は慌てていたら聞き逃します。スローに**一人の「いのち」を育て**ましょう。在宅の目標は、無理に笑わせることでもなく、ピースサインの写真でもありません。存分に生きる姿は、私達医療者の想像を超えてゆきます。



2月21日に「生きること、伝えること」

みえ生と死を考える市民の会のミニ講演会です。

AYA世代(思春期・若年成人)のがんについて語って戴きます。

講師 廣田圭さん 伊勢市出身

2月21日(日) 13時半

津市 三重県総合文化センター

一般300円 会員は無料

(事前申込不要) **ぜひ御参加を。**



新しい在宅診療所への移行について

4月から医療制度が改定され、在宅医療の関連部分は、相当替わってきます。詳しい情報が3月になるため、情報はさらに次号で。



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可